

赤谷プロジェクト 近況報告

ムタコ沢の水源かん養機能について

赤谷プロジェクト地域協議会では、「赤谷の森」のムタコ沢にちなんで「ムタコの日」を設け、この地域に住んでいる方々に周囲の森林の大切さや水源かん養機能等を理解していただけるような活動に取り組んでいます。

今年度からは、従来の取り組みに加え、降雨前後のムタコ沢の濁度や簡単な器具を使用した森林土壌の水の浸透機能について調査し、科学的な視点から森林の水源かん養機能に



ムタコ沢濁度調査の様子

ついて紹介していくことになりました。

その調査ポイント選定のため、6月にセンター職員及び自然環境モニタリング会議委員が新緑の森林と清冽な流れのムタコ沢で予備調査を行いました。

今後ムタコ沢の素晴らしさを伝えるため、様々な取り組みを進めていきます。

高校生への森林環境教育

毎年、利根実業高校1年生約80名を対象として、2年生進級時のコース選択の参考となるよう、20名ずつ4回に分け、赤谷プロジェクトの取り組みについて解説し、生物多様性復元に向けた活動を紹介しています。今年度は、既に3回実施済みであり、



猛禽類の見分け方を解説する職員



猛禽類の観察実習

あと一回は9月に予定しています。

当日は、「いきもの村」で猛禽類の観察などを行いました。この日初めて双眼鏡や望遠鏡を手にする生徒も多く、野鳥が飛ぶたびに歓声が上がっていました。

これをきっかけとして、多くの生徒が自然環境に関心をもち、森林科学コースを選択してくれることを願っています。

植生管理の指針づくり

6月30日(火)に平成21年度第1回植生管理ワーキンググループの会合が開かれました。

赤谷プロジェクトでは、人工林を自然林に戻していくために必要な植生管理の指針づくりを進めており、目標とする自然林のタイプとして

「ブナ・ミズナラを主体とする森林」「クリ・コナラを主体とする森林」「溪畔林」の3種類を想定し、それぞれのモニタリング試験地の設定、森林施業との調整、さらに、人工林として継続すべき箇所を標高や林道からの距離などの一定の基準値により判断していくことが検討されました。

また、「赤谷の森」の植生管理において、地域の意見を反映させるため、平成23年度からの次期「地域管理経営計画」等へ地域の意見を反映していく仕組みや手法などについても、活発な議論が交わされました。



「赤谷の森」の森づくりについて議論